

# 月刊 あなたにこの **本** を！ 平成 23 年 **11** 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの( )内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



## 昭和ノスタルジック百貨店=Showa Nostalgic Department store



オフィス三銃士 編著

ミリオン出版(発行) 大洋図書(発売)

1680 円 (0012338635)

**ジャンル : 歴史・文化に親しむ**

屋上の遊園地や動物園、大食堂での食事など、最高の設備を備えていた百貨店は、人々の憧れの場所だった。現在も伝統を守り続ける老舗(しにせ)や、閉店してしまった店など、昭和 30 年代を中心に全国の百貨店 36 店を紹介する。日本の高度成長とともに発展してきた百貨店の変遷を、建築物やアトラクション、イベントなどの写真でたどる稀有(けう)な写真集。懐かしさとともに、百貨店黄金期の店の様々な様子がつぶさにわかり、見るだけで楽しくなる。〔673.8〕



## 上を向いて歩こう

佐藤 剛 著

岩波書店 2100 円 (0012332634)

**ジャンル : 知識・教養を深める**

「上を向いて歩こう」は、1963 年に発売され、今なお多くの人に歌い継がれている。19 歳の流行歌手の曲が日本のみならず世界中でリリースされ、全米チャート1位を獲得したのはなぜか。音楽プロデューサーである著者が、作曲家中村八大、作詞家永六輔、歌手坂本九の人生を丹念に追いながら、奇跡の一曲が誕生した真実にせまる。曲が生まれ育った昭和の時代に思いをはせながら、復興や希望の象徴としても愛されるこの曲を口ずさみたくなる。

〔767.8〕



## なにしてあそぶ？

—福知さんちの親子あそび日記—



福知伸夫 著

福音館書店 1050 円 (0012310857)

**ジャンル : 子どもの成長のために**

小さい子どもとあそぼうと思っても、なにをしたらいいのか困るときもある。この本では、著者が2人の娘と楽しんできた60のあそびを紹介している。ひもで三つ編みの練習、洗濯ばさみのオブジェ作りなどは、誰しも経験があるのではないだろうか。家族旅行などがテーマのすごろく作りも面白そうだ。著者の手によるイラストと必要な材料もページごとに添えられ、読むだけでも楽しく、身近なものでこんなにあそべるんだと早速ためしてみたいくなる。〔781.9〕

## 6枚の壁新聞 —石巻日日新聞・東日本大震災後7日間の記録—

石巻日日新聞社 編  
角川マガジズ(発行) 角川グループパブリッシング(発売)  
980 円 (0012329512)

ジャンル：現代社会を見つめる

宮城県にある石巻日日新聞社は、地震により輪転機が動かない中、壁新聞を発行する。自らも被災者である記者達は、家族を心配し、破壊された郷土の姿に胸を痛めながら取材を続けた。本書からは、地域の役に立ちたいという使命感と、情報量も伝達力も限られた壁新聞しか発行できないことへの悔しさが伝わってくる。震災下、地方新聞という媒体が何を伝え、何を伝えられなかったのか、非常事態における情報の発信がどのようにあるべきかという示唆に富む。[070.21]

## 辺境から世界を変える —ソーシャルビジネスが生み出す「村の起業家」—

加藤徹生 著 井上英之 監修  
ダイヤモンド社 1680 円 (0012329506)

ジャンル：現代社会を見つめる

送電網が届かない地に太陽光発電で灯りをもたらしたアジアの起業家や、援助金を政府が吸い上げてしまう国で貧困層の人々に最適な道具を届けるNGO。本書は、彼らが挑んだ変革の成功例を紹介する。それらの共通点は、一時的な援助に依らず、システムを構築し、ビジネスとして成立させたことにある。困難に直面している当事者だからこそそのアイデアと信念が周囲を動かしていく。自分たちの力で社会を変えようとする途上国の新しい姿を知ることができる。[335.89]

## 上方芸人自分史秘録

古川綾子 著  
日本経済新聞出版社 980 円 (0012343356)

ジャンル：大阪にゆかりの本

明治から平成にかけて主に大阪で活躍した芸人 24 人が自伝や談話で残した言葉をもとに、ワッハ上方学芸員の著者がまとめた評伝。エンタツ・アチャコ、六代目笑福亭松鶴から、散髪屋を経て浪曲師になった広澤瓢右衛門まで、面白おかしい中に物哀しさが残る芸人たちの人生が描かれる。漫才、落語以外に、講談や即興芝居の仁輪加(にわか)などにも光を当て、上方芸能の奥深さに触れることができる。貴重なポスターやプログラムも多数掲載され、往時がしのばれる。[779]

## 池澤夏樹の世界文学リミックス:完全版

池澤夏樹 著  
河出書房新社 2940 円 (0012282189)

ジャンル：知識・教養を深める

個人で世界文学全集を編集した著者が、収録作品についてその関連作品とともに語る。アジアの作家や女性作家の作品などを含む第二次大戦以降の多様で豊かな現代文学を、今この時代を読み解くものとして紹介している。世界中を旅し多くの本を読んできた上で培われた世界観、文学観により縦横無尽に展開される解説が魅力的だ。「友だち相手においしいものでも食べながら」話すような気楽な著者の口調に誘われ、とりあげられた作品を手にとってみたくなる。[904]

## 老いの歌 —新しく生きる時間へ—

小高 賢 著  
岩波書店 735 円 (0012352957)

ジャンル：暮しにうるおいを

本書では、有名無名の人々が自身の老いをよんだ短歌をとりあげ、「老いる」とはどういうことかを見つめ考える。歌人であり新聞などで選者もつとめる著者は、思いを伝える親しみやすい文学としての短歌を紹介し、老いをうたうことの面白さ、味わうことの魅力を示す。例えば、斎藤史の作「携帯電話持たず終らむ死んでからまで便利に呼び出されてたまるか」に見るおかしみなど、それぞれの歌は個性や状況を映し、しみじみと考えさせられる。[911.16]